

第40回 東京都環境審議会 企画政策部会 発表資料

CLIMATE YOUTH JAPAN

鈴木、山本、萌奈

2021年8月20日



団体紹介

- ・ 2010年、COP(気候変動枠組条約締約国会議)に参加した日本のユースにより設立。
- ・ 将来に大きな影響を与える気候変動に高い関心をもつ、全国各地の学生を中心に**約60名**が所属。
- ・ **世代間衡平で持続可能な社会**の実現に向けて、気候変動問題についての**若者への啓発活動**や、**関係省庁・企業への働きかけ**、**イベント企画**を行う。
- ・ 設立以来、多くの若者をCOPに派遣している (今年も派遣予定)。



活動概要

イベント企画

- ・ 気候変動×感染症
- ・ 気候変動×食
- ・ パーマカルチャー



ライフスタイル

- ・ キャンドルナイト
- ・ ecoTAPi
- ・ コンポストPJ
- ・ プラントベースPJ



少人数でのグループワーク

ベースの活動

政策提言

- ・ 関係省庁への政策提言
- ・ 自民党ヒアリング出席
- ・ 他団体との議論



環境カフェ

海外事業

- ・ COP
- ・ LCOY/COY/vCOY
- ・ Climate Score Card



環境先進都市 東京都の実現に向けた提案

1. 都民の環境問題の認識拡大
2. 水の循環型社会の実現
3. 環境先進都市としての中長期目標の設定

環境先進都市・東京としてのあるべき姿

1. 都民の環境問題への認識拡大

行政機関だけではなく、都民も環境問題に**関心を持ち**、積極的に環境政策に**協力**できている



- ・一人一人の行動が積み重なって社会の潮流を変革
- ・行政の政策の**効果が最大化**

2. 水の循環型社会の実現

水資源においても循環ができ、環境負荷の少ない活動が行われている



- ・東京湾の**水質問題の改善**
- ・持続可能な資源利用に貢献

3. 環境先進都市としての中長期目標の設定

日本の首都・国際都市として、環境先進都市を目指す上で**野心的な削減目標**を掲げている



- ・環境先進都市として、国内外都市の**環境政策をリード**
- ・日本政府の環境政策の推進に貢献

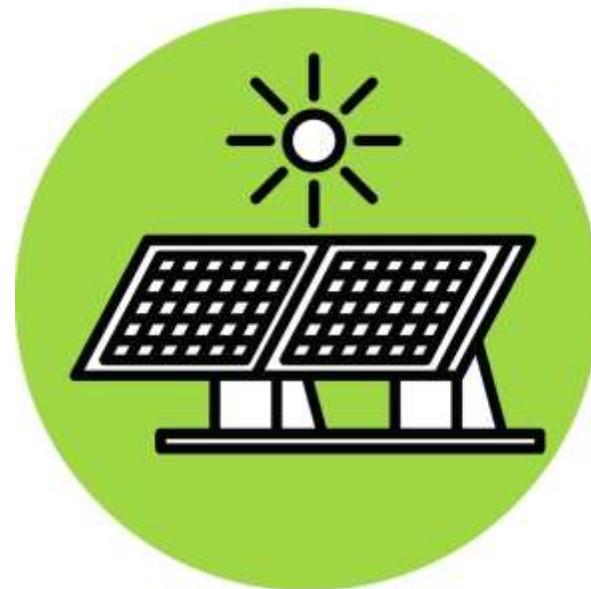
現在の課題



認識不足



水循環対策



中長期目標

都民の認識不足

課題

- ・気候変動やそれが将来にもたらす**リスク**について認識していない
- ・東京都の環境政策に関して理解できていない
- ・個人に**何ができるのか**を知らない



提案

- 内閣府大臣官房政府広報室と連携し、政府広報枠を使って**CM**で認識を広める
- ex. 東京都の環境政策や気候変動のもたらすリスク、個人にできる取り組みを内容に
- ・個人間の環境問題に対する**対話の機会**を提供
- ex. 川崎市では市民を無作為抽出をして、市民が環境問題に関する議論に参加
- ・環境問題を身近に感じられる仕組みづくり
- ex. 自然に優しい製品の利用、グリーンナンバープレート



環境問題に当事者意識を持たせるための提案



**東京都広報枠
でのCM放送**



**市民との対話
機会の増加**



**環境を意識させる
仕組みづくり**

東京都広報枠でのCM放送

- 東京都生活文化局広報広聴部と連携した、『**東京都の環境への取り組み**』内容の紹介
 - ⇒CM形式(15秒)での放映
 - ⇒東京都の自然保護、持続発展の観点からの紹介
- CM単位の短い映像で、都民を対象とした意識啓発

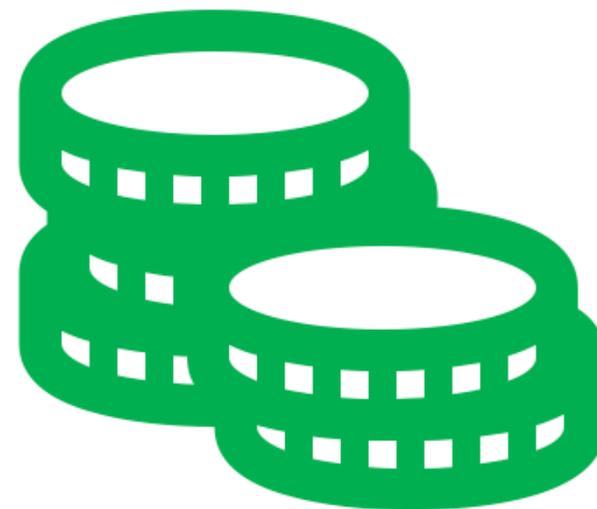
性別や世代の枠を超えた環境意識の創出



市民との対話機会の増加



無作為抽出



補助金(対価)

Ex) QUOカード

市民との対話機会の増加



- 北海道札幌市
『札幌市民会議』
気候変動問題対策をテーマに議論を実施
- 千葉県鴨川市
『かもがわ市民会議』
市の総合計画(5カ年計画)を市民が中心となって作成し提案
- 神奈川県川崎市
『脱炭素かわさき市民会議』
無作為に抽出された人々で対話を企画



環境を意識させる仕組みづくり

- 幼少期より環境に触れられる機会を増やす
⇒環境に対する体験を増やして、多面的な考えを身に付けてもらう
- 小学校・中学校での環境教育導入
- 河川や森林での課外活動時間及びNGO活動の支援
- 親世代の生涯教育としての環境体験活動の促進

東京都の水質問題

東京都の下水処理の約8割は旧式の汚水と雨水を同じ一本の下水道管で流す合流式を採用しており、大雨の際には東京湾内に河川を通じて、汚水を流している



現状の都の対応

水面制御装置によって汚水を削減しようとしている

⇒水面制御装置は固形物のゴミを7割取り除くだけで水に溶けた大腸菌やリンなどの化学物質を取り除くことはできない



水資源の循環

課題

東京湾内に河川を通じて、大雨の際には汚水や水に溶けた有害物質が流れており、水質が悪化している

近年の気候変動の影響による大雨の頻度の増加などもあり、すでに問題となっている都内の河川や東京湾内へのヘドロや汚水の流出はさらに増加する可能性がある。早急に水質改善のために水の循環型社会のシステム構築が必要である。



水質改善のためのインフラ整備

- ・ 合流式下水道から**分流式システム**への転換
- ・ 経過措置としてガイドウォールや水面制御盤の設置、高性能化と水面制御装置の効果測定の実施

持続可能な水循環環境の意識啓発

- ・ 学校教育で**河川等の水環境の問題を提示**することによる問題意識の涵養
- ・ 都内の一級河川でアサリなどを活用した**水質改善ワークショップ**の導入

環境教育の取り組み事例



- 福島県
学生や市民団体を対象とした、水生生物による水質調査を実施
- 埼玉県
行政や河川浄化団体による地元や学校に対して講座を開催
- 兵庫県
生活排水処理状況の異なる河川の水質を比較するワークショップの開催

環境先進都市としての中長期目標

東京都の中長期削減目標の意義

国内

- ・日本の首都として他の自治体の参考、目標となる
- ・産業と学問が集中しているので、産学官協同での削減に取り組みやすい

国外

- ・日本を代表する国際都市として世界の諸都市が参考にする指標の一つとなる
- ・アジアでのモデル都市になる



東京都は国内外の多くの自治体や都市への影響力が大きいので、**リードする存在として野心的な中長期目標**を掲げられるポテンシャルを持っている



環境先進都市としての中長期目標

問題

日本全体を牽引する首都として、世界の主要都市と比較した際に、**削減目標が低い**と考えられる。

科学的根拠

Climate Action Trackerの分析によると、パリ協定の1.5°C目標達成のためには、日本は2013年度比で60%以上の削減が必要

世界の主要都市の例

カーボンニュートラルの達成目標年度

- ・コペンハーゲン：2025年
- ・オスロ：2030年
- ・ヘルシンキ：2035年

日本の首都・環境先進都市として国内外の諸都市の環境政策をリードしていくには、**60%以上**の削減を目指す中間目標を設定すべき
→CCSなどの技術に頼らなくても、再エネ発電比率向上と省エネによって十分可能

CYJとして取り組んでいくこと

- ・あらゆる政策や機会における**気候変動や環境問題の主流化に向けた貢献**と**啓発活動**の実施
- ・COP・COY(COPユースフォーラム)の参加/報告会を通じた**世界の若者との連携**と、市民の巻き込み
- ・「**COPの日本誘致を促進**し、日本のユースの意見を社会、そして世界に発信」



さいごに

**東京都の取組は、気候変動の未来を大きく変える力があります
東京から、環境を変えていく**



ご静聴、ありがとうございました。